

4. 自費出版事情… ～会員便り～No.32

☆ 知つとこ 愛知 ☆ その 3



□□ _____ □□

1. お知らせ …第23回日本自費出版文化賞のホテルでの 最終選考会は中止

□□ _____ □□

第23回日本自費出版文化賞の選考は1次選考が終わり、7月18日に2次選考会が開かれました。しかしコロナ感染不安もあり、無理のない参加ということで、なんとか10人が参加し2次選考会を行いました。その中で3人の方が新しい選考委員として参加しましたが、3人とも文化賞の部門賞や特別賞を受賞した方々ということもあり、担当部門の評価と選考理由は一同納得するものでした。

さて、例年ですとこの後、最終選考委員に選考していただき、9月早々に吉祥寺のホテルで最終選考会と記者発表となるのですが、今年はコロナ感染防止のため、自宅で選考をした後、選考理由を書いて事務局に返送してもらうことにしました。そして各部門賞候補計7冊を鎌田慧選考委員長と中山千夏委員に送り、二人の協議で大賞を決めることになりました。

記者発表は、9月15日（火）17時より吉祥寺東急REIホテルにて行いますが、発表は主催者のジャグラと主管団体のネットワークが行い、選考理由は代読となります。

□□ _____ □□

2. お知らせ … 2020日本自費出版フェスティバルの開催可否は 10月初旬に決定

□□ _____ □□

2020日本自費出版フェスティバルは11月28日（土）アルカディア市ヶ谷で予定されていますが、コロナ感染状況を見て10月初旬までに開催の可否を理事会で決めることにしました。

□□ _____ □□

3. トピックス … ZOOMIによるWeb会議始まる

□□ _____ □□

7月28日に行われた、第1回「自費出版アドバイザー2級試験（仮称）」準備会議は、八王子の山崎さん、相模原の荒井さん、三鷹の宮川さんによるZOOMIによるWeb会議でした。今後、奈良の住田さんや松本の加藤さんを交えて本格的な準備に入りますが、距離を越えたWeb会議は全国に散らばる会員にとって心強いツールになりそうです。（その時の様子写真添付）

□□ _____ □□

3. 自費出版事情 … ～会員便り～ No.32

□□ _____ □□

(株)銀座コーポレーション ブックス銀座
有限会社 奄美共同印刷
代表取締役 前 平 彰 信

「シマの書店奮戦記」

喜界島は奄美空港から飛行機で約20分という目と鼻の先にあり、周囲約48km、人口7千人足らずの小さな島である。島に一軒しか残っていない書店（売り場面積30坪）が行き詰り、その経営を引き受け7年4カ月が経過したが、未だに悪戦苦闘の日々である。

20数年前から印刷の営業で月に一度喜界島に訪れていたが、本が好きで業務を終えた夕刻にはほぼその書店に出入りするうちに店主と親しくなり、夜の街にも繰り出す仲になった。

書店の経営は全国的に厳しい上に、喜界町で進めた12校の小・中学校を一気に3校に統廃合した影響もあり立ち行かなくなったようである。

本屋が閉まったことはすぐに島中に衝撃が走った。私も島から本屋をなくすのは忍びないと思い、引き受け手を探したり再開の方策を提案したりして相談にのったが、3カ月経っても事態は進展しない。そうこうしているうちに大手取次店の九州支店長が来島し、全面的に支援もするし良い条件を出すから何とか引き受けて貰えないかと私との交渉に入った。

私も若い頃は本屋をやってみたという想いもあり、本業の印刷や複合機販売など外商に力を入れたら何とかなると思い、妻や周囲の猛反対を押し切り引き受けることにした。私も常時喜界に滞在できる訳ではないので、今までの書店主を店長にしてレジは新しいパート体制にし、月に2回ほど私が喜界入りしてテコ入れをするということで新しい書店が再開された。毎日送られて来る日報と売上ジャーナルをチェックし指示を出すことにした。オープンには多くの島民が来店し喜び、取次店の支社長もわざわざ訪れ祝ってくれた。

しかし、書店の仕入れや仕組みも全くわからず、ただ本が好きだけでは本屋の運営は至難の業。取次店の支店長も支社長もすぐ異動になり相談もできず、当初はキャパ以上に納入される入荷の量に翻弄されたり、あてにした学校の教科書取扱いも奄美市の書店が海を越え参入し、営業に慣れない店長の尻を叩きながら同行営業したりと、苦闘の日々が続く。最近では「見計らい送品」とかで、分けのわからない送品もあり、常に取次店とのせめぎ合いだ。幸いなことに町当局や議会も支援の手を差しのべ、何よりもレジのパートさん達の対応も好評で、以前の本屋に比べて陳列の本が多くなったと喜んでくれるお客さんの声が一番の支えだ。

とは言え、シマの本屋を残すためにあの手この手の奮闘はまだまだ続きそうである。

□□ _____ □□

☆ 知っとこ 愛知 ☆ その3

たかくらさん

熱田神宮の500mほど北に「高蔵神社」があります。
高蔵神社＝たかくらさんは正式には高座結御子神社（たかくらむすびみこじんじゃ）と呼ばれ、尾張の祖神を祀る社です。豊臣秀吉が幼少期に母親に連れられ、出世祈願した太閤出世稲荷もあります。
ただ私にとっては子どものためにあるような神社でした。
というのは、六月のお祭りの日が近づくと、子どもたちは法被を着て「わっしょい」「チロリン」と掛け合いながら、獅子がしらと一緒に町内を練り歩きます。一回練り歩くたびに駄菓子をもらえ、喜んで参加したものです。お祭りは子供の生育を祈願し、子どもに井戸を覗かせて疳の虫を封じる行事でした。そんな健やかに育ててほしいという願いをかなえてくれる神社です。

また、もし行かれたら拝殿裏の堀に回るとちょっとユーモラスなお参りの仕方が説明されています。
木槌をたたいて「たかくらさん起きてちょ、頼みをきいてちょ」と名古屋弁のお参りも体感できる神社です。

株式会社マルワ 長谷川 潔

★あとがき

今回の会員便りは、最南端のメンバーから寄稿いただきました。
奄美大島も当然喜界島も訪れたことのない私は、美しい南の島の唯一の本屋さん
がなかなか想像できませんが、前平さまの本に対する熱い思いはひしひしと
伝わってきました。
「シマの本屋さん」を通して皆さんが繋がっていくようなコミュニティの場になると
いいですね。存続を心よりお祈りしています。

「知っとこ愛知」は熱田神宮近くの高蔵神社。
実は日本で一番神社仏閣の多い都道府県の愛知県なのです。
コロナ禍で街中にはなかなか行けないので、身を清めに近くの神社仏閣巡りをするのも
いいかもしれませんね。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら
yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。

